

宮崎県工業用水道事業の紹介

○事業主旨

宮崎県工業用水道事業は、日向延岡地区新産業都市の細島工業団地に立地する企業に、県北を流れる耳川の水を使い低廉で豊富な工業用水を供給する目的で実施されており、本県北部地域の産業振興に貢献している。

○事業の経緯

日向市から延岡市にかけての臨海工業地帯は、低廉で広大な用地がある、大型船舶が接岸可能な港湾を備え、良質で豊富な工業用水が得られるなど、工業誘致の要件を具備していることから新産業都市の指定を目指して県の総力をあげて、強力な運動を展開した結果、昭和39年1月に新産業都市としての指定を受けた。

宮崎県工業用水事業は、新産業都市計画に伴う先行投資事業として、細島工業団地の工場等に工業用水を供給するため、昭和37年10月、第一次計画25万m³/日の第一期工事を起債単独事業として、約13億円の工事費をかけて12万5,000m³/日の設備建設に着手し、昭和39年10月に完成させ、同年10月20日から給水を開始した。

開始当初から多量の未売水を抱えて赤字経営を余儀なくされたが、昭和50年4月から、工業用水の使用水量について受水企業との間に責任水量制を導入するとともに、昭和51年には、設備の自動化・省力化工事などを行い経営の健全化を図った。

また、平成5年4月からは、発電所と同様に総合制御所（宮崎市）から工業用水道施設の監視・制御を行い効率化を図った。

さらに、平成8年度から平成12年度にかけて、工業用水の安定供給を維持していくために、送水管等の耐震力向上等の改築工事（総事業費約26億円）を行った。

○ユーザーの概要

(H20.10 現在)

産業分類	事業所数 (件)	契約水量 (m ³ /日)
食料品製造業	2	4,656
飲料・たばこ・飼料製造業	2	342
化学工業	2	62,500
非鉄金属製造業	2	55,000
その他の製造業	3	642
非製造業（不動産、運輸）	2	1,478
計	11	124,618

○工業用水道施設の概要

水 源	耳川表流水
給水開始	昭和39年10月20日
取水口取水能力	267,500m ³ /日
取水能力	125,000m ³ /日
給水方式	自然流下
主要施設	送水管 9.3km（うち隧道4.9m） 配水管 2.7km 浄水場、配水池

耳川から取水した工業用水は、通常は、直接供給しており、台風などにより濁水が発生した場合は、濁水処理を行った上で供給している。

○事業の特徴

細島港には、貨物船の大型化やコンテナ貨物の急速な増加に対応するため、大型埠頭や荷役効率の高いガントリークレーン等を備えた国際ターミナルが整備されており、宮崎県工業用水道事業では、産業基盤整備の一翼を担うため、低廉で豊富な工業用水の供給に努めている。

近年、省資源、自然環境対策等の要請が高まるとともに、節水や用水の循環使用などが進んでいること、産業構造の変化により大量に工業用水を使用する新規

